

令和8年度大船渡市防災訓練の結果について

1 日時

令和8年10月4日（日）午前7時30分から午前9時まで

2 訓練参加者

総参加者数 5,705 人

- ・ 一般参加者及び自主防災組織 4,941 人
- ・ 訓練参加機関 764 人（48 機関）

※ 10月4日（日）午前10時30分現在

3 総括

本日は、東日本大震災クラスの地震及び津波を想定し、自主防災組織や防災関係機関などに参加いただき、市防災訓練を実施しました。

市災害対策本部では、関係機関への支援要請等に係る連絡や、防災行政無線等を用いた情報伝達通信訓練、福祉避難所開設時の情報伝達の訓練等を行うとともに、各地区本部でも、避難者の受付体制や備蓄資機材を確認するなど、地区本部及び避難所の開設・運営に向けた初動対応を確認しました。

自主防災組織においても、津波ハザードマップを活用した避難場所や避難経路の確認、防災資機材の確認など、地域の実情に応じた取組が行われました。

また、本年度は、大船渡北小学校を会場として、公立大学法人岩手県立大学防災復興支援センターの御協力による避難所開設訓練、消防署によるはしご車を活用した救出訓練及び放水訓練を実施するとともに、各種体験コーナーなどを設け、市民の防災への関心を高め、防災意識の向上につながる内容としました。

避難所開設訓練では、周辺の自主防災組織や自治会、大船渡中学校の生徒など、幅広い世代の方々に参加いただき、同センターの杉安和也副センター長から避難所開設に当たっての考え方などについて説明を受けるとともに、実際にパーテーションや段ボールベッドを組み立てるなど、避難所開設への理解を深め、災害時の避難所運営を具体的にイメージする機会となりました。

災害時には、自らの身を守る「自助」とともに、地域で支え合う「共助」が重要です。地域の方々が世代を超えて訓練に参加し、避難所の開設や運営を実際に体験したことは、地域における災害対応力の向上につながるものと考えています。

今回の訓練を通じて得られた成果を今後の取組に生かすとともに、今後も地域や防災関係機関との連携を深めながら、市民の防災意識と災害対応力の向上に取り組んでまいります。